

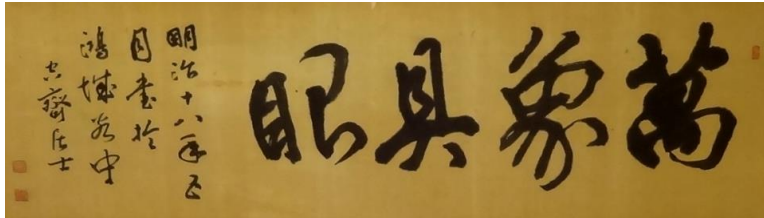
# 西の菜時記

平成28年9月30日発行  
第42号

発行元：山口市菜香亭  
指定管理者  
特定非営利活動法人  
歴史の町山口を甦らせる会

## 特集：山田顕義ゆかりの地を辿る

◆山口市菜香亭：〒753-0091 山口市天花1丁目2番7号 TEL:083-934-3312 FAX:083-934-3360◆



菜香亭の大広間に掲げている山田顕義書「万象具眼」。すべての本質を見通すという意味です。

明治以降、岩倉使節団に入り米欧で見聞を広めた顕義は帰国後、明治六年徴兵制を敷いてしまった山県有朋と対立して陸軍から司法省に転身。「兵は凶器なり」。先に「国に法あり律あり、教育あり」という

### 法律の世界に理想を追い求めて

明治以降、岩倉使節団に入り米欧で見聞を広めた顕義は帰国後、明治六年徴兵制を敷いてしまった山県有朋と対立して陸軍から司法省に転身。「兵は凶器なり」。先に「国に法あり律あり、教育あり」という



山田顕義(国立国会図書館ウェブサイト)

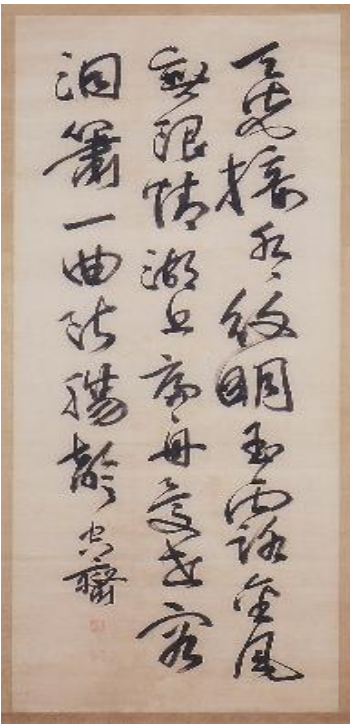
山田顕義は1844年萩に生まれました。「性質遅鈍・垂鼻頑獣」と評されるような少年時代でしたが、12歳で松下村塾に入ると吉田松陰をはじめ高杉晋作・久坂玄瑞ら諸先輩たちの影響を受け、たくましく成長していきました。久坂玄瑞とともに攘夷運動に突き進み、禁門

初代司法大臣

日本大学学祖

山田顕義

やまだあきよし



菜香亭所蔵の顕義の漢詩の掛軸

山田顕義の家は上級武士でした。顕義の父は藩の海軍頭を務めた頭行です。顕義の大伯父は、長州藩の人材育成に重点をおき吉田松陰らが育つ土壌を作った村田清風です。伯父には長州藩海軍を育てた山田亦介がいます。

### 革新派のサラフレット!

山田顕義はとても優しくてこまめな人だったようです。岩倉使節団で一年数か月に及ぶ長い渡海中、正月にあわせて大使や副使たちを自分の合宿所に招いて日本料理を振る舞ったり、使節団の中でも宴会部長のごとく忘年会の計画や連絡を率先してやり、その上料理を作ってみんなの里心を癒したそうです。

### 料理の腕はいつ磨いた?

山田顕義は、幕末の歴史を語られるときあまり目立った存在ではありませんが、長州藩が関わる戦いすべてに参加し生き延びたまれな人物であり、明治以降は法治国家実現のために奮闘した志貴き人物であることを多くの人に知っていただきたいものです。

## ◆菜香亭市民ギャラリー出展作品紹介・予定表◆

### <市民ギャラリー出展作品の紹介>

第3回 ふたりっこ制作展 in 山口  
—向田秀敏・美保— 8/25~8/28



カメラ片手に漫ろ歩き 写真展  
—山口市シルバー人材センターパソコン班— 9/8~9/12



### <平成28年度 市民ギャラリーの予定> 10・11・12月

月日	時間	タイトル	出展者
10/22 ~23	10時~16時	山口発 「暮らしに寄りそう ハーダンガー」	HappyJoyous Hardanger ちくちくの会
11/16 ~20	10時~17時 (最終日のみ 15時まで)	水彩画8人展 「山口の風景と静物」	水彩画同好会 「香山」
12/3 ~4	9時~17時 (最終日のみ16時 まで)	山口の初冬を飾る器たち展	陶酔工房

見に来てね!

出展ご希望の方は、

2ヶ月前までにお申し出ください。

※ご利用について内面に詳しく掲載しています。

(お問い合わせ)

TEL : 083-934-3312

FAX : 083-934-3360

## 菜香亭界限史跡めぐり (光台寺と上堅地蔵尊)

萩往還と国道9号線バイパスが交差する上堅小路交差点の傍に、小さなお堂があり、その中に上堅地蔵尊が安置されて、付近の住民から崇められています。元々は、上堅小路にある光台寺敷地内にありましたが、9号線バイパスの建設に伴い用地となり、現在地に移されました。

光台寺は、室町時代に大内弘直が吉敷中尾に真言宗寺院として創建し、後に、第29代当主大内政弘が一の坂の惣田(隠し田)に屋根を板で葺いたお堂を建てました。このため、板堂峠と呼ばれ、萩往還で一番高い峠で標高約540mあります。慶長年間(1596年)に一の坂銀山が開発され、この板堂は銀山祈願所となりました。一の坂銀山は、村の由来書によると家が三千軒も建ち並び、遊女町、魚屋町、八百屋町などがあつたと記されています。

又、一の坂銀山で精錬された銀は、「一の坂並銀」、「一の坂中銀」、「山口判銀」、「天又銀」と呼ばれ、萩藩成立期の厳しい財政に大きく寄与しました。

明暦2年(1656年)一の坂の大火の際、この板堂も焼失し、中の地蔵菩薩は、火中から光を放って飛び去って、上堅小路に飛来したと伝えられています。

このご縁で、光台寺は、天和3年(1683年)に現在地に再興されました。人々は、飛来して来た地蔵菩薩を小さなお堂に安置し、今でも尊像の脊にその時の焼痕が残っていると言われ、火難除地蔵として地域の祈願所として信仰されています。

道端の小さなお堂に安置されているお地蔵様にも、苦難に満ちた言い伝えがあり、傍を通り説明書きを読むと、思わず手を合わせてしまいます。



火難除地蔵。長年にわたり人々の信仰をまつてきた。左が山口市シルバー人材センター。



一の坂銀山の跡地に看板が立っている。看板奥に間歩(坑道)が残る。

